

「科研説明会」FD研修（シンポジウム）

「科研説明会」FD研修（シンポジウム）での説明

教職大学院・露口健司

1. 自らの授業改善の方策・計画

これまでの科研費研究及び申請作業を振り返る中で、採択のための要点を探り出すことができた。教職大学院や教育学部の先生方と、当該ポイントについて共有することができた。

教職大学院において、研究活動と社会貢献活動は、授業実践の原動力である。科研費申請の自他にわたるブラッシュアップ活動により、今後、その原動力の強化を図りたい。

2. 提示資料

最近の獲得実績（分担を含む）

人工知能はどのように社会を変えるか—ソーシャル・キャピタルと格差の視点からの検討

日本学術振興会: 科学研究費補助金 挑戦的研究・開拓
研究期間: 2017年4月 - 2020年3月 代表者: 稲葉陽二【分担】

若年層教員のキャリア発達についてのパネルデータ分析

日本学術振興会: 科学研究費補助金 挑戦的研究・萌芽
研究期間: 2017年4月 - 2020年3月 代表者: 露口 健司【代表】

教職キャリアにおける発達課題の基礎研究

日本学術振興会: 科学研究費補助金 基盤研究C
研究期間: 2016年6月 - 2018年3月 代表者: 高木 亮【分担】

教育政策がソーシャル・キャピタルの醸成に及ぼす影響に関する研究

日本学術振興会: 科学研究費補助金 基盤研究(B)
研究期間: 2014年4月 - 2018年3月 代表者: 露口 健司【代表】

ソーシャル・キャピタルの政策含意—その醸成要因と地域差の研究

日本学術振興会: 科学研究費補助金 基盤研究(A)
研究期間: 2012年10月 - 2016年3月 代表者: 稲葉陽二【分担】

教師の心理・学校経営・教育行政に基づいた包括的な教師のメンタルヘルスの確保

日本学術振興会: 科学研究費補助金 基盤研究(C)
研究期間: 2012年4月 - 2015年3月 代表者: 高木 亮【分担】

小学校区におけるソーシャル・キャピタルの構築に関する研究

日本学術振興会: 科学研究費補助金 基盤研究(C)
研究期間: 2010年4月 - 2013年3月 代表者: 露口 健司【代表】

公立学校組織における保護者関係マネジメントの研究

日本学術振興会: 科学研究費補助金 若手研究(B)
研究期間: 2008年4月 - 2010年3月 代表者: 露口 健司【代表】

科研費獲得に必要なトリプル・ネットワーク

【上位団体ネットワーク】

大組織に加盟し、忠実に実績をあげて認められる。おこぼれをありがたく頂く。

【自己組織ネットワーク】

部下をまとめあげ、部下に資金を配分し、忠誠心を引き出す。

【扶養ネットワーク】

時には、部下に喰わせてもらう。科研費は常にあたるわけではないので、セフティーネットが必要。

テーマ設定：ナウくてシブい

【挑戦的萌芽の事例】

- ・若年層教員の大量増加問題
- ・新たな視点からの解決策の提案
- ・教育委員会との共同研究
- ・教職大学院の組織的研究
- ・パネルデータ生成や因果推論
- ・「マルチパネルデータ」という新規性
- ・萌芽であることの強調

書き方：50歳以上の研究者にうったえる

- ・ベテランは、大局的に評価してくれる。
- ・ベテランは、学会の今後を考えている。
- ・ベテランは、自分が理解できる新規性を評価する。
- ・ベテランは、図表で理解する。
- ・ベテランは、研究組織のチームワークを見る（名義貸しに敏感）。
- ・ベテランは、研究業績を見る。

その他の心得：

- ・研究業績欄はめいっばい書く。
- ・科研費研究の成果を出版する。
- ・パソコン、プリンター等の日用品は書かない。
- ・先端機材と海外関連で申請額を上げる（⇒上納金UP）。
- ・原則として、ランダム比較試験モデルでの研究計画。